



2021年度 年主題「共に喜んで～すべての歩みの中～」

0・1・2歳児10月主題「やってみる・たのしい」

月のねがい
 ◎保育者と一緒に賛美歌を歌おうとする(0)◎戸外で体を動かす遊びを楽しむ(0)◎周りのようすを感じ取りながら、いろいろな事をしてみようとする(0)◎保育者と一緒に賛美したり祈ったりする(1.2)◎友だちや保育者と楽しんで体を動かす(1.2)◎自然の中の面白さや季節の変化を感じ、様々なも

3・4・5歳児10月主題「はずませて」

月のねがい

◎聖書のお話を聞く機会が増え、神さまの愛(みこころ)を共に感じる(3)◎季節の移り変わりを感じる中で、体を動かす心地よさを感じる(3)◎リズムや音楽に合わせて、歌ったり体を動かすことに心を弾ませる(3)◎神さまが創られた世界、自然を五感で感じ、恵みへの感謝を賛美や祈りで表す。(4.5)◎ひとりでも友だちとでも、心と体を弾ませ夢中になり取り組み、深めたり創り出すことを楽しむ◎躍動の時と静まる時の両方を、豊かに心地よく過ごす(4.5)◎絵本や物語をゆっくと楽しむ(4.5)



ねがいを込めて・・・

朝夕がだんだん涼しくなってきましたが、日中はまだまだ残暑が厳しく、汗びっしょりで遊んでいる子どもたちです。

0・1・2歳児クラスでは月に一度、一人一人の個人の振り返りの日を設けています。保育者や支援員が、いろいろな角度からその子の成長や友だちとの関わり、言葉や仕草での表現、食事面など育ちの様子を出し合います。そして、それぞれの子どもの翌月のねらいを立てて、保育者の援助の仕方や声かけの仕方などを検討するとともに大切な学びの時間です。

2学期になり、1歳児は周りの友だちを見て、少しずつ身の回りのことに興味をもち始め、『自分でやってみよう!』らしき姿が見られるようになってきました。やってみようという意欲を大切に、さりげない支援を受けて、『できた!』の思いがだんだん増えてきています。保育者とだけでなく、「どうぞ!」などと友だちとやりとり遊びをしたり、追いかけて走り回ったりしています。時にはおもちゃの取り合いになったりして、友だちへの興味や関心が高まってきていると感じる今日この頃です。運動会のお稽古中、体育館では遊具もあってウロウロする子どもいますが、2歳児と一緒に保育室で体操をすると、動きを一生懸命真似ている姿がとてもかわいかったです。0歳児も1歳児のすることをよく見ています。一緒に1歳児とスタートしようとする姿も見られ、小さいながらも刺激を受けている姿の中に、日々成長を感じています。

今年はオリンピックがテーマの運動会。4・5歳児が毎日一人ずつ“聖火”を持ち帰り、繋いで繋いで本番を迎えます。運動会に向けて上のクラスのお友だちは、あれこれと頑張らないといけない場面もありますが、この経験を通して心と体のめざましい成長を毎年感じています。きつとかつこいお兄ちゃん、お姉ちゃんの姿が小さい子たちの憧れとなることでしょう。今年もコロナ禍での縮小運動会となりますが、子どもたちのガンバリを応援していただければ幸いです。 大河



今月の聖句 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

民数記 6:25

「あなたの隣り人を自分自身のように愛しなさい。」これは、聖書の教えの中でもよく知られた大切な教えの一つです。けれども、このイエス・キリストの教えは何を言っているのでしょうか。

飛行機に乗りますと、緊急時における救命胴衣や酸素マスクの着用についての説明があります。小さなお子さんと一緒に飛行機に乗っているとします。緊急時に酸素マスクが頭上から垂れてきました。さて、皆さんであれば、その酸素マスクを最初に誰に付けるでしょうか。お子さんでしょうか、ご自身でしょうか。正解は、実はご自身が先なのです。自分がまず安全を確保しなければ、他者を助けることが出来なからです。これは飛行機での緊急時に限らず、震災や天災などにおける救援活動などにおいても同じことが言えるのです。つまり、他者を助けられる人、他者を愛することが出来る人というのは、まず自分自身を愛することが出来る人でなければならない、ということなのです。

正しい、豊かな、基本的愛情を受けて育った子どもは、自ずと愛するということがどういうことなのかを知っています。愛されるということ、心でも頭でも身体でも覚えていきます。幼児期の子どもに格別の愛情を注がなければならない理由はそのここにあります。そして他者に対しても愛情豊かな人へと成長していくでしょう。

協力牧師 池田基宣



10月の行事予定

2日(土)	第64回運動会(雨:種子高)
3日(日)	運動会予備日(雨:種子高)
4日(月)	振替休日
6日(水)	実りの秋パーティー
8日(金)	10月誕生会
13日(水)	牛見学
27日(水)	すもう大会(年長・中)・弁当
28日(木)	すもう大会(2・3歳児)

11月の行事予定

2日(火)	給食試食会(すみれ)
4日(木)	学校へ行こう(年長児)
6日(土)	役員会
10日(水)	秋の一日遠足・弁当日
12日(金)	11月誕生会
17日(水)	給食バイキング
20日(土)	入園説明会(11:00~)
24日(水)	クリスマス会予行・弁当日

子どもが望むことか否か

昨今の今頃は台風もまだ十号だったので、十六号だと多く感じますが、今までのところ接近数は少ないようです。十月の台風は例年強くなりながら油断大敵です。まずは、運動会が好天の中で無事行われんことを祈ります。

先日講演の中で、一時期よく耳にした「モラトリアム」という言葉を久しぶりに聴きました。元々は「支払猶予の期間」とのこと。心理学者エリクソンが人間の発達段階を八つに区分し、「青年がアイデンティティを確立するまでの猶予期間」を「モラトリアム」と呼んだわけですね。人間が健全に成長するためにとても重要な期間ともいえます。ただ、その時期を超えても自立を回避し、大人になろうとしない青年のことを「モラトリアム人間」と精神科医の小此木啓吾氏は名付けました。思春期に顕れる自己を見失った状態が長引く要因の一つは、幼児期の過剰な干渉に影響を受けていることでもあるようです。

「過保護」は響きを受けていることでもありますが、自分勝手に「過保護」が「あの子は過保護で甘やかされたので、自分勝手に調整できない」という子もいます。しかし過保護はほんとうにわがままな子どもにしてしまうのでしょうか。子どもは自分の望んでいるいろいろなことを思い通りにしてしまおうと、ある時期にはもう満ちたりて、どんどん自立していくものです。欲求が長びくじやないか、自立が遅れるんじゃないかと思いがちですが、かえって満ち足り自立が早いとも言えます。子どもの心を育むために大切なものは、近しい者との基本的信頼関係、そして自分が存在することへの自信の獲得です。そのためには自分の欲求がいつもしっかり受けとめられ、愛され保護されている確信が必要で、本人が望むことを十分に与えることに過ぎることはないでしょう。

一方、「過干渉」はどうでしょうか。幼児期になると子どもはいろいろなことに興味・関心を持ち、自発的に行動するようになり、挑戦していきまします。そこで、親は心配で見つめられず、つい口や手を出します。児童精神科医の佐々木正美氏はこう指摘しています。「子どもはやらねばならないことばかりやらせすぎると、自分がやりたいことよりも、やらねばならないことのほうに心が強くなる。そこで親の多くはうまくいった場合、褒め言葉や品物を買ってあげ、過剰な褒めをやる。幼児期からそうしたことをされすぎると、評価に過敏になり、親や大人の評価にばかり心が奪われ、褒められることばかりして、叱られるようなことをしない子になってしまふ。反抗期のない良い子過ぎる子どもは自分を失っている状態である。」とのこと。やらなければならぬことに対する一定の干渉は必要でしょうが、何事も過ぎたるは及ばざるがごとしです。

子どもたちがもつとも活発な活動を展開する実りの時期です。ゆつくりと周囲の自然を観察しながら落ち着いた時間を満喫したいと思えます。運動会、実りの秋パーティー、牛見学、おすもう大会と行事もピークを迎えますが、何より子どもたちのしたいことを大切に、いのちはずむ時となりますように。 園長

自分のしたいことや、すべきことを 見つけて取り組み、達成感を味わう

友だちとの遊びが楽しめるようになってくると、友だちと共通のめあてを見つけながら遊びや生活をすすめるようになっていきます。あまり自分のしたいことは表に出てこない傾向にあります。しかし、友だちと共通のめあてを見つけていくためには、自分のしたいことがはっきりとあり、みんなで遊びや生活をすすめるためにすべきことを感じている必要があります。

そこで、この時期のねらいを「自分のしたいことや、すべきことを見つけて取り組み、達成感を味わう」としています。

自分のしたいことやすべきことを見つけるといいうことは、自分の役割を見つけることでもあります。ただし、役割は人から与えられたものでは意欲が出てきません。「みんなでこんな遊びや生活がしたい。」という思いのもと、「こんなことができる」「だから私はこうしたい」というものが、役割になっていくのでしよう。「したいこと」と「すべきこと」と「できること」が一致するものを見つけたとき、大人も子どもも充実感を持って力を発揮することができていくのです。



著：松本信吾 (広島大学附属幼稚園)